

産地パワーアップ事業の取組事例

(北海道)

取組の概要

取組の概要 : 作業の共同化及び収益性の高い作物への転換を推進
計画作成主体 : 置戸町地域農業再生協議会
対象品目 : 小麦、豆類、てん菜、馬鈴しょ、
 スイートコーン(産地面積計: 450ha)
主な取組主体 : 農事組合法人勝山グリーンファーム
成果目標 : 販売額の10%以上の増加
 (総販売額)
助成金の活用 : 生産支援事業
状況

ポイント

畑作物の適正な輪作体系の確立、農地の大区画化に対応したポテトハーベスター等の大型機械のリース導入による作業の効率化、収益性の高い作物(加工馬鈴しょ等)への作付転換を推進し、産地の販売額の21%以上の増加を図る。

地区の概要



産地の現状と目標

現状: H26年度

- 作付面積:
小麦(主要6品目中1位): 158.22ha、
馬鈴しょ(主要6品目中3位): 37.86ha、
てん菜(主要6品目中2位): 117.67ha、
豆類(主要6品目中6位): 12.02ha、
スイートコーン(主要6品目中5位): 68.61ha
- 農業者が個別に機械作業を実施。労働負担増加により輪作体系の維持が困難。

目標: H30年度

- 作付面積:
小麦: 150ha、
馬鈴しょ: 70ha、
てん菜: 150ha、
豆類: 20ha、
スイートコーン: 60ha
- 作業の共同化により適期作業体系の確立。余剰労働力を収益性の高い作物へ転換し、販売額増加に取り組む

推進体制

置戸町、きたみらい農業協同組合、農業改良普及センター等が連携し、取組主体に対し指導等を実施し事業を推進。

地域における独自の取組

主な取組

- 置戸町において、地力増進のための緑肥補助を実施。
- きたみらい農業協同組合・農業改良普及センターにおいて、農地の大区画化に対応した、肥培管理・防除技術等の指導。



事業効果

産地の収益力を向上するためには、適期作業体系と適正な輪作体系の確立が必要。

ポテトハーベスター等の大型機械の導入を進め作業効率を高めることにより、適期作業体系と適正な輪作体系を確立することにより、販売額の増額を図る。

このことにより、農業者の所得向上につながり産地強化が図られる。

~対象作物の販売額(総販売額)~

